町内の自然観察と史跡を探訪し8年4カ月

歩くことを楽しみながら動植物などの自然とふれあい、郷土の歴史や史跡を探訪し、見聞を広めながら健康づくりや参加者相互の親睦を図ることを目的とする「大網白里ウォーキング会」が1月23日に100回目となる記念大会を開催し、参加者と共に節目を祝いました。

大網白里ウォーキング会は平成13年10月からスタートし、町内の異なる約100コースをこれまでに計画。参加者は延べ約6千人にも上っています。

この記念大会にも約110人が集まり、青空の下、宮谷八幡宮や本國寺、房総道水路などを横目に、参加者同士が交流を図りながら散策しました。

▲交流を深めながら歩く参加者

会長の上田弘子さんは「有志で下見や企画、当日の受付など、協力しながら会を進めてきました。ただ、私たちの自由にならないのが天気。それでも中止になったのはこれまでで4回だけ。参加者皆さんの日ごろの行いと心掛けが良いからですかね」と喜びとともに語ってくれました。

火災を想定しシューターで避難
増穂北小で避難訓練

▲シューターを使った避難訓練

地震の発生から火事が起きたことを想定して、増穂北小学校で1月14日、避難訓練が行われました。

午前10時、地震の発生を告げる放送が流れると、全校児童は防災クッションをかぶり、机の下へ。先生の指示に従って落ち着いて整列し、体育館へ避難しました。

その後、逃げ遅れた児童が出たことを想定して、シューターを使って脱出する訓練も実施。校舎の3階ベランダから「逃げ遅れ児童が16名います」と声が掛かると、すばやくシューターを設置し、児童たちは一人ずつ滑り降りて避難しました。

訓練終了後、奥田校長は「落ち着いて避難できていた。どんな時に地震や火災が起きるか分からない。命を守るのにはどうしたらいいか、みんなで考えて欲しい」と児童に話しました。

また、先生方もシューターの設置の仕方や使用するときの注意点などを学び、万が一に備えました。

地域連携で災害に立ち向かう
若葉区自主防災会「総合訓練」

▶バケツリレーの様子

若葉区自主防災会が1月24日、「総合訓練」を行い災害に備えました。

地区住民42世帯46人が、若葉コミュニティ会館に集合し、名簿で避難終了を確認した後、南消防署の指導で初期消火訓練を学びました。

参加者は水消火器を使用した消火方法・バケツリレーによる消火方法を実践。声を掛けながら、落ち着いて消火にあたりました。

指導した南消防署の中村副所長は「現実的には、災害時に道具がすべてそろっているとは限らない。臨機応変に対応して欲しい」と呼び掛けました。

その後、三角巾を使った手当方法やAEDの使い方、簡易担架の作り方を学習。積極的に質問をして、手順を確認しながら真剣に取り組んでいました。

◀簡易担架を試す参加者

浦上自主防災会長は「平成19年に結成して以来、避難訓練・総合訓練を年に1回ずつを行っている。どちらも毎回多くの人に参加してもらえるよう、工夫しながらやっていきたい」と意気込みを語りました。

税って何だろう？
小学校2校で租税教室

▲瑞穂小学校での授業風景

子どもたちに税への正しい理解を深めてもらおうと、町内の小学校2校で租税教室が行われました。

町税務課の職員が1月13日に増穂小学校、14日に瑞穂小学校をそれぞれ訪問。6年生を対象に特別授業を行いました。

授業では児童にも身近な消費税を題材に、税がどのように集められるかを劇で学習。「国会役、日本銀行役」等に分かれて演じ、それぞれの役割を確認しました。また、もし税がなかったらどんな社会になるかをビデオで学びました。

児童からは「税がわたしたちのために欠かせないものだと分かった」、「税がなくなると大変な世界になると分かった」などという意見が寄せられました。

コスモス通信

●町サッカーフェスティバル

中学生の部が2月6日・7日に大網中と増穂中で、小学生の部は2月13日・14日に4月オープン予定の町営サッカー場を会場として開催されました。

隣接市町のチームも参戦し、熱戦を繰り広げました。結果は次のとおり。

＜中学生の部＞

優　勝　大網中学校
準優勝　ACカラクテル
第3位　増穂中学校
　　山武南中学校

▼ベストイレブン

田所寛基（大網中）
北澤　陸（大網中）
石木田修平（大網中）
安武敬弘（大網中）
初芝政弘（大網中）
作田真好（ACカラクテル）
伊藤元気（ACカラクテル）
千葉勇希（ACカラクテル）
菅谷雄之介（ACカラクテル）
太田　颯（増穂中）
蒔田竜一郎（山武南中）

＜小学5年生の部＞

優　勝　FCウイング
準優勝　九十九里JFC
第3位　みずほFC

＜小学6年生の部＞

優　勝　みずほFC
準優勝　FCウイング
第3位　城西JFC